

第61回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館展示 作家・荒川ナツシュ医に決定

国際交流基金（JF）は、2026年5月から11月にかけて、イタリア・ヴェネチアにおいて開催される「第61回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展」の日本館展示を主催します。このたび、国際展事業委員会の選考会議を経て、日本館出品作家に荒川ナツシュ医（あらかわなつしゅ・えい）が決定しましたので、お知らせいたします。貴媒体でのご紹介やご取材を何卒よろしくお願い申し上げます。なおキュレーターについては、決定した後で、作家との対談等の公開イベントも検討しておりますので、追ってお知らせします。

※「荒川ナツシュ」までが複合の名字ですので、「荒川」ではなく「荒川ナツシュ」と常に表記をお願いします。

記

■第61回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館

会期：2026年5月9日（土）～11月22日（日）

会場：日本館（ビエンナーレ会場 ジャルディーニ地区内）

出品作家：荒川ナツシュ医

主催／コミッショナー：国際交流基金

日本館公式ウェブサイト：<https://venezia-biennale-japan.jp/j/>

■第61回 ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 全体概要

会期：2026年5月9日（土）～11月22日（日）

会場：ジャルディーニ地区（Giardini di Castello）、アルセナーレ地区（Arsenale）など

総合ディレクター：コヨ・クオ（ツァイツアフリカ現代美術館エグゼクティブディレクター／チーフキュレーター）

総合テーマ：未定（5月20日発表予定）

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課（担当：熊倉、福島）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

■作家 略歴



撮影: Ricardo Nagaoka

1977 年福島県生まれ。日系アメリカ人。アメリカ合衆国ロサンゼルス在住のクイア・パフォーマンス作家。様々な人物との共同作業を続け、「私」という主体を揺るがしながら、アート作品や作家の主観の不確かさをグループ・パフォーマンスとして表現している。ロサンゼルスのアートセンター・カレッジ・オブ・デザイン、大学院アートプログラム教授。近年では、ハウス・デア・クンスト（ミュンヘン、2025 年）、国立新美術館（2024 年）、CHAT センター・フォー・ヘリテージ・アーツ・アンド・テキスタイル（香港、2024 年）、東京都写真美術館（2024 年）、クンストハレ・フリアル・フリップル（2023 年）、ミュージオン・ポーツェン（ボルツァーノ、2023 年）、アーティスト・スペース（ニューヨーク、2021 年）、テート・モダン（ロンドン、2021 年）、ジャン大公近代美術館（ルクセンブルク、2021 年）、ホルル・ビエンナーレ（2019 年）などの展覧会に参加。

■作家コメント

数年前に日本国籍を喪失し、日本代表としてヴェネチア・ビエンナーレに参加する機会はないと思っていました。1966 年の草間さんのゲリラ行為や 1997 年の内藤礼さんの空間など、ビエンナーレの歴史的なパフォーマンスと対話できるこの機会に高揚しています。

パンデミック以降、日本館の選考プロセスは大きく変わりました。作家がキュレーターを選び、追加資金を調達しなければならない。国を代表するという「宿題」は複雑になってますが、見方を変えれば、今までよりさらに作家が主体性を持って展覧会に関与出来るということ。これまでの日本館でのダムタイプ、毛利悠子さんに続き、次の誰かにバトンタッチ出来るような風穴を開けたい。

現在、夫と私はロサンゼルスのアジア系ディアスポラ・コミュニティの新しい一員である 2 人の子供をせわしなく育てています。最近、和田夏十さん脚本の 1962 年の映画『私は二歳』をもう一度見ました。彼女の脚本は、2026 年の日本館の私のパフォーマンス展開のヒントとなるでしょう。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課（担当：熊倉、福島）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

【選考過程について】

国際交流基金から委嘱された6名の国際展事業委員会（下記1）が国内外の26名の推薦委員からノミネートされた複数の作家の推薦リストをもとにまず第一次選考にて7名/組に絞り（下記2）、各候補者に参加の可能性の確認と基本的な展示プランの提出をお願いした。第二次選考会議では個別のプランについて評価をした後、荒川ナッシュ医に決定した。

※ 選考についての講評は後日ウェブサイトで公開予定です。

<https://www.jpff.go.jp/j/project/culture/exhibit/international/venezia-biennale/art/>

1. 国際展事業委員（五十音順、敬称略）

片岡真実
蔵屋美香
建畠哲
南雄介
野村しのぶ
鷺田めろろ

2. 最終選考に残った候補者（五十音順、敬称略）

荒川ナッシュ医
今津景とバグース・パンデガ
小泉明郎
志賀理江子（辞退）
島袋道浩
目 [mé]
山城知佳子

【ヴェネチア・ビエンナーレ（La Biennale di Venezia）について】

ヴェネチア・ビエンナーレは、イタリアの島都市ヴェネチアの市内各所を会場とする芸術の祭典です。

1895年に最初の美術展が開かれて以来、130年近い歴史を刻んでいます。近年、世界各地で美術を中心に、国際的な芸術祭が開催されるようになってきていますが、ヴェネチア・ビエンナーレはそれらのモデル・ケースとなった最も著名な存在です。「ビエンナーレ」とは「2年に一度」意味するイタリア語で、同様な芸術祭の多くが「ビエンナーレ」や「トリエンナーレ」（3年に一度）と命名されているのは、ヴェネチア・ビエンナーレに範をとったものとされています。現在、美術展、建築展、音楽祭、映画祭、演劇祭などを独立部門として抱えるようになりましたが、なかでも美術展は、現代の美術の動向を俯瞰できる場として、また国別参加方式を採る数少ない国際展として世界の美術界の注目を集めています。

日本は1952年に初めて公式参加を果たし、1956年に日本館の完成を経て、今日に至るまで毎回参加を継続しています。1976年からはJFが日本館展示を主催し、現在に至ります。日本館の過去の代表作家についてはアーカイブサイトをご覧ください。1993年には草間彌生も出展しております。

美術展 | ヴェネチア・ビエンナーレ日本館公式サイト：<https://venezia-biennale-japan.jpff.go.jp/j/art>

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課（担当：熊倉、福島）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpff.go.jp

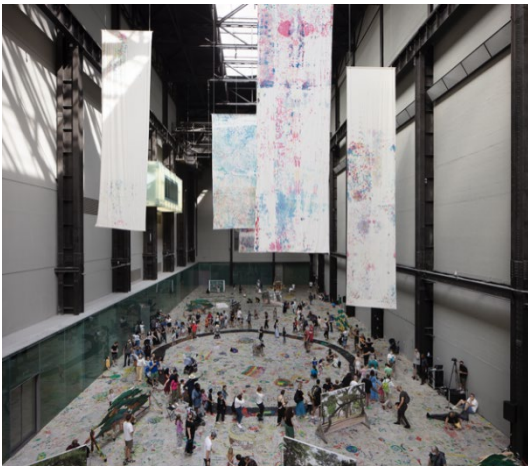
【コミッショナーについて】

第 61 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示の主催者／コミッショナーである「独立行政法人国際交流基金（JF）」は、世界の全地域において、総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関です。1972 年に外務省所管の特殊法人として設立され、2003 年 10 月 1 日に独立行政法人となりました。海外に 25 か国・26 か所の拠点を持ち、「日本の友人をふやし、世界との絆をはぐくむ」をミッションに掲げ、世界の人々と日本人の間でお互いの理解を深めるため、さまざまな企画や情報提供を通じて人と人との交流をつくりだしています。

■ 広報用画像

本プレスリリースに掲載の画像は、全て広報利用が可能です。

画像を希望される方は、広報担当の熊倉・福島（press@jpf.go.jp）までご連絡ください。



荒川医《メガどうぞご自由にお描きください》
2021 年、展示およびパフォーマンス風景
テート・モダン、ロンドン、撮影：Brotherton-Lock
Courtesy of the artist



荒川ナッシュ医《ぬいぐるみの主観性》
2024 年、パフォーマンス風景
CHAT、香港、撮影：Spark Photography
Courtesy of the artists



荒川ナッシュ医《LGBTQIA+ ベイビー・シャワー・イベント》
2024 年、パフォーマンス風景
国立新美術館、東京、撮影：中川周
Courtesy of the artists and The National Art
Center, Tokyo



荒川ナッシュ医《パネル（エルズワース・ケリー《スペクトラム I》
1953 年）》
2024 年、展示およびパフォーマンス風景
国立新美術館、東京、撮影：中川周
Courtesy of the artists and The National Art Center,
Tokyo

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課（担当：熊倉、福島）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp



荒川ナッシュ医、2024年
「ペインティングス・アー・ポップスターズ」展示風景
国立新美術館、東京、撮影：中川周
Courtesy of the artists and The National Art Center,
Tokyo



荒川医《パフォーマンス・ピープル》
2018年、展示風景
Kunstverein für die Rheinlande und Westfalen、
デュッセルドルフ
撮影：Katja Illner, Courtesy of the artist



荒川医、2021年
「ポスト・キャピタル」展示風景
ジャン大公近代美術館、ルクセンブルク
撮影：Rémi Villaggi
Courtesy of the artist



荒川医《シー・ウィーズ》
2011年、展示およびパフォーマンス風景
レ・ザバトワール、トゥールーズ、撮影：Marc Boyer
Courtesy of the artists

【ご使用時の注意点とお願い】

- ・画像のご使用は本展の広報目的のみに限ります。
- ・画像の掲載に際しては、作家名、作品名、作品情報及び所定のクレジットを必ず記載してください。
- ・画像の改変（トリミング、部分使用、文字のせ含む）、画像の二次使用はご遠慮ください。
- ・事実関係確認のため、出版前に記事校正を広報担当者までお送りください。
- ・掲載誌または掲載記事を広報担当者までお送りください。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課（担当：熊倉、福島）
Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044
E-mail: press@jpf.go.jp